

例年なら、新年度を迎えて間もなくゴールデンウィークがやってきて、園生活の勢いがいったん中断したりしますが、今年度は始まって間もなく梅雨になるというのも勢いが上向きになりづらいですね。結局一年を通してのリズムや波長は同じになるのかも知れません。

幼稚園が始まってひと月、子どもたちとの生活でまず感じたのはマスク着用におけるプラスとマイナスです。良いところとしては、コロナ対策。それとバスの中が静か。保育室でも比較的落ち着きがある、といったところです。生活様式として受け入れていること、そしてそのことをあまり意に介していないかのよう、子どもたちってすごいし、えらいなあと感心します。マイナスに関しては、子どもたちは関係なく、保育者側というかむしろ私事になるのでしょうか・・・、声がこもる、聞き取りづらい話しづらい、くるしい・・・何より顔の半分が隠れているのですから、こちらの表情を伝えづらいし相手のことも読み取りづらい。子どもたちと接する者にとってはかなりのデメリットを感じずにはいられません。ペンぎんさんも始まりましたが、幼い子どもたちにはもっとこちらの表情を見せたいですし、年長さんにはすでに体操のタイゾー先生も出現しておりますが、マスクをしたままミッキーマウスマーチを歌いながら行進したりそのまま運動あそびを続けた結果、ひとクラスずつ3クラスやらねばならないのにひとクラス目でそれはそれはバタバタでカタコトの英語すらほとんど出てこないような状況でした。とタイゾー先生が言ってました。段取りも散らかっちゃってごめんよ。って言ってました。

目は口程に物を言う、と言いますが、やはり目も口も同じくらい表現には大切です。そんなさなかで、察してくれたり、園生活を心得て過ごしてくれている子どもたちに私たちは助けられているような気もします。感謝とともに、この伸びしろのある子どもたちがどんなふう的一年を過ごしてくれるのか。とても楽しみです。

今月の参観は、情勢的にも時間的にも、私たちにとっても保護者の皆様にとっても満足のいく内容にはならないかもしれませんが、今学期せめて少しだけでも担任の想いと子どもたちの様子を見ていただきたく機会を設けた次第です。制限の中での参観にはなりますが、ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。